業　務　棚　卸　表

年度	平成15年度	作成日	平成16年2月17日
所属名	中消防署　西分署		
所属コード	708111	作成者	加藤　清
評価日	平成16年5月25日	評価者	武藤　勇

任務目的が2つ以上ある場合は合計が100%となるよう設定してください。

シート名	業務割合
警防	30%
救急	40%
救助	10%
予防	20%
合計	100%

		成果･活動指標	実績(平成14年中)	実績(平成15年中)	目標(平成15年中)	困難度	業務割合	評　価
上位目的	火災その他災害による被害が少なくなる	･火災時の自･他殺以外の死傷者数の減少及び救急時の心肺停止患者の救命率の向上(一ヶ月生存)	･死者4名･負傷者29名 **3件**/219 1．4%	･死者4名･負傷者21名 **16件**/242 6．6%	**過去5年平均より下回る** 死者3．6名･負傷者20．4名 **過去5年平均より上回る** 3.70%	A		
任務目的	火災を速やかに鎮圧させる	延焼率の低下 (類焼棟数 ／建物火災件数)	(延焼棟)(建物火災件数) **23 棟 / 81 件** 28%	(延焼棟)(建物火災件数) **25 棟 / 74 件** **34%**	**過去5カ年間の平均** **(34．6%)より下回る**	A	100%	☆☆☆
任務目的に対する評価	これまでの取り組みと成果、手段の妥当性	災害にかかる被害の軽減及び災害現場での安全管理の徹底を図るため、前年度を上回る各種消防訓練及び研修を実施し、所属職員の警防技術の向上を図ることができた。						
	これからの課題、施策、事業展開の方向性	昨年度は全国的にも神戸市での民家火災、桑名市でのRDF火災などの災害にて多くの消防職員が殉職するという痛ましい事故が発生しており、また、ブリジストン(株)栃木工場火災、苫小牧出光興産(株)屋外タンク火災など、大規模かつ、特異な火災が発生していることから、そういった、特異な災害に対する防御方法も視野に入れ、更に現場での安全管理の徹底を含めた検討が必要である。						

総労働時間数	84,834
所属正職員人数	41
〃(管理職を除く)	39
年間所定労働時間数	1,968
所属平均時間外数	22
所属平均年休、夏特日数	18.6
全嘱託職員総労働時間数	
全臨時職員総労働時間数	

業務コード 2桁	4桁	目的達成に必要な主な手段	活動指標	実績(平成14年中)	実績(平成15年中)	目標(平成15年中)	困難度	業務割合	業務時間数	評　価	基本的な手段に対する評価
01		消防訓練の実施					**B**	**20%**	**5090.0**	☆☆☆	実災害を想定した各種訓練を実施し、訓練後動作ミス、安全確認の確保等防御体制全般についての反省会を実施し、消防活動の充実強化を図ることができた。
	0101	春･秋予防運動期間中	訓練回数	2 回	2 回	実績回数以上	B	10%	509.0		
	0102	訓練施設での研修(AFT)	訓練回数	0 回	0 回	実績回数以上	B	10%	509.0		
	0103	文化財防火運動中	訓練回数	1 回	1 回	実績回数以上	B	10%	509.0		
	0104	水防訓練の実施	訓練回数	3 回	3 回	実績回数以上	B	10%	509.0		
	0105	危険物安全管理強調月間中	訓練回数	1 回	1 回	実績回数以上	B	10%	509.0		
	0106	火災防御図上検討	訓練回数	18 回	25 回	実績回数以上	B	50%	2545.0		
02		警防調査の実施					**B**	**50%**	**12725.1**	☆☆☆☆	防火対象物、危険物施設、水防危険箇所等について警防調査を実施し、周囲を含め全般を事前に掌握することにより実災害時の対応について検討を加えることができた。
	0201	中高層建物等調査	実施件数	5 件	5 件	実施件数	B	20%	2545.0		
	0202	危険物施設調査	実施件数	17 件	40 件	実施件数	B	10%	1272.5		
	0203	消防水利･地理調査	実施件数	15 件	15 件	実施件数	B	50%	6362.6		
	0204	河川･水路調査	実施件数	3 件	9 件	実施件数	B	10%	1272.5		
	0205	水防危険個所調査	実施件数	2 件	9 件	実施件数	B	10%	1272.5		
03		車両等整備の強化(点検等)					**B**	**5%**	**1272.5**	☆☆☆	緊急時に、消防車両等の消防資機材を日常的に整備を行い適正に維持管理が図られた。
	0301	消防車･救急車･指揮車･広報車	点検回数	消防車両等(7台) (月1回／12ヶ月)	消防車両等(7台) (月1回／12ヶ月)	実績回数以上	C	100%	1272.5		
04		消防団との連携強化					**C**	**10%**	**2545.0**	☆☆☆	消防団員に対して、各種訓練指導を行うとともに、合同訓練を通じて消防体制の充実強化を図ることができた。
	0401	団競練会指導	指導回数	12 回	10 回	実績回数以上	B	70%	1781.5		
	0402	団員指導	指導回数	3 回	12 回	実績回数以上	B	10%	254.5		
	0403	団との合同訓練	指導回数	2 回	5 回	実績回数以上	B	20%	509.0		
05		職員研修					**B**	5%	**1272.5**	☆☆☆☆	実災害を研修材料として取り上げ、警防技術の向上を図ることができた。
	0501	派遣研修	実施回数	1 回	3 回	実績回数以上	B	10%	127.3		
	0502	職場研修	実施回数	12 回	42 回	実績回数以上	B	90%	1145.3		
90		火災出動						**10%**	**2545.0**	——	公務災害も発生せず、発生した災害に迅速的確な対応が図られた。
	9001	火災出動	出動件数	41 件	41 件	40件(予測)		60%	1527.0		
	9002	警戒出動等	出動件数	46 件	42 件	50件(予測)		40%	1018.0		

業　務　棚　卸　表

年度	平成15年度	作成日	平成16年2月17日
所属名	中消防署　西分署		
所属コード	708111	作成者	加藤　清
評価日	平成16年5月25日	評価者	武藤　勇

		成果･活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	評　価
上位目的	火災その他災害による被害が少なくなる	･火災時の自･他殺以外の死傷者数の減少及び救急時の心肺停止患者の救命率の向上（一ヶ月生存）	･死者4名･負傷者29名 **3件/**219 1．4%	･死者4名･負傷者21名 **16件/**242 6．6%	**過去5年平均より下回る** 死者3．6名･負傷者20．4名 **過去5年平均より上回る** 3.70%	A		
任務目的	火災を予防する	出火率 （火災件数×人口×10,000）	152件/327,445人 ×100，000 **4.6**	151件/327,854人 ×100，000 **4.6**	**過去5年平均より下回る** **4.3**	A	100%	☆☆☆
任務目的に対する評価	これまでの取り組みと成果、手段の妥当性	新宿歌舞伎町の雑居ビル火災にて多くの死者が発生したことにより、消防法が大改正され、違反対象物の是正強化が図られた。これを受けて管内の防火対象物の是正指導を実施するとともに、空き家及び枯れ草管理についても指導を実施し、火災予防に努めた。また、消防広場の開催や事業所、自治会、学校等への消防訓練指導を通じて火災予防意識の啓発を図ったことにより、一般市民の防火意識を高めることができた。						
	これからの課題、施策、事業展開の方向性	火災予防は消防業務の原点であるが、近年、東海、東南海、南海地震などの大規模地震が危惧されているため、地域住民の自主防災組織の育成指導をも合わせた実施していく必要がある。						

業務コード **2桁** ┆ 4桁		目的達成に必要な主な手段	活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	業務時間数	評　価	基本的な手段に対する評価
01		広報活動の実施					**B**	**10%**	**1,697**	☆☆☆☆	火災予防運動及び消防広場等の開催を通じて、普段接する機会の少ない消防資機材等とふれあい、市民に火災予防意識の高揚を図ることができた。
	0101	火災予防運動等消防広場	回数･人員	1　回　200　人	**2　回　290　人**	10%以上（住民参加人数）	B	30%	509.0		
	0102	消防施設一般公開	回数･人員	1　回　500　人	1　回　500　人	10%以上**(児童参加人数)**	B	40%	678.7		
	0103	消防施設見学	回数･人員	3　回　223　人	3　回　100　人	10%以上**(参加人数)**	B	30%	509.0		
02		自衛防災体制の強化					**B**	**5%**	**848**	☆☆☆☆	自主防災隊等に対し、消防訓練を通じて消防体制の強化を図ることができた。
	0201	訓練指導	回数･人員	24　回　426　人	20　回　2，000　人	10%以上**(参加人数)**	B	100%	848.3		
03		自主保安管理体制の強化					**B**	**15%**	**2,545**	☆☆☆	特殊事業所に対して、火災時に対する初動作を実施させ、自主保安体制の強化を図ることができた。
	0301	表示･公表制度の検証	適合率（防火管理体制指導）	適合　3　件（100%）	適合　3　件（100%）	適合90%**以上**	B	90%	2290.5		
	0302	医療･福祉施設監視	防火管理体制指導数	**3**　件　（適合100%）	適合　3　件（100%）	適合90%**以上**	C	10%	254.5		
04		立入検査の実施					**B**	**20%**	**3,393**	☆☆☆	一般事業所に対して立入り検査を通じ、是正指導を実施するとともに、火災予防意識の高揚を図ることができた。
	0401	定期査察	査察数(違反数)	95　件（40件）	80　件　（33件）	前年実績以上	B	40%	1357.4		
	0402	是正指導（消防用設備維持義務違反）	違反是正率	8　件（19件）（違反数）	2件　（17件）（違反数）	是正率30%以上	B	20%	678.7		
	0403	是正指導（防火管理者未選任）	違反是正率	4　件（18件）	2件　（16件）	是正率30%以上	B	10%	339.3		
	0404	是正指導（消防計画未作成）	違反是正率	6　件(19件)	5件　（18件）	是正率30%以上	B	15%	509.0		
	0405	是正指導(上記以外)	違反是正率	9　件（23件）	9件　（23件）	是正率30%以上	B	15%	509.0		

05		防火対象物規制の届出(消防法･)					**C**	**30%**	**5,090**		
	0501	消防用設備着工届	適正指導	11 件	16 件	適正処理	C	10%	509.0	☆☆☆	消防法に基づく各種届出処理に対して適正に処理が実施された。
	0502	消防用設備設置届	適正指導	11 件	14 件	適正処理	C	10%	509.0		
	0503	防火対象物使用開始届	適正指導	16 件	16 件	適正処理	C	20%	1018.0		
	0504	消防用設備点検結果報告書	適正指導	93 件	96 件	適正処理	C	30%	1527.0		
	0505	防火管理者選解任届	適正指導	22 件	30 件	適正処理	C	10%	509.0		
	0506	消防計画作成(変更)届	適正指導	29 件	26 件	適正処理	C	10%	509.0		
	0507	避難訓練実施報告	適正指導	35 件	26 件	適正処理	C	10%	509.0		
06		火災予防条例の届出					**C**	**5%**	**848**		
	0601	少量危険物等開始変更届	適正指導	13 件	10 件	適正処理	C	20%	169.7	☆☆☆	火災予防条例に基づく各種届出に対して、適正に指導が実施された。
	0602	電気設備設置届	適正指導	5 件	4 件	適正処理	C	10%	84.8		
	0603	火気使用設備等設置届	適正指導	3 件	2 件	適正処理	C	5%	42.4		
	0604	道路工事･水道断水届	適正指導	65 件	60 件	適正処理	C	35%	296.9		
	0605	火災と紛らわしい行為届	適正指導	30 件	30 件	適正処理	C	20%	169.7		
	0606	水張･水圧検査	適正処理	6 件	2 件	適正処理	C	10%	84.8		
07		火災原因究明					**A**	**5%**	**848**	☆☆☆	火災の原因について、緻密に調査、検証等を実施し、火災原因の究明に努めることができた。
	0701	原因損害調査	原因･損害確定	15 件	13 件	原因確定(不明火の減少)	A	100%	848.3		
	0702										
08		火災予防予防措置					**B**	**10%**	**1,697**	☆☆☆	管内における空き家･枯れ草調査を実施し、適正な維持管理の指導を図るとともに火災予防に努めることができた。
	0801	空家調査	危険性排除	指導数(41件)	指導数 (42件)		B	15%	254.5		
	0802	枯草調査	適正指導	指導数(122件)	指導数 (122件)		B	60%	1018.0		
	0803	予防相談	適正指導	指導数(9件)	指導数 (9件)	適正管理50%**以上**	B	25%	424.2		

業　務　棚　卸　表

年度	平成15年度	作成日	平成16年2月17日
所属名	中消防署　西分署		
所属コード	708111	作成者	加藤　清
評価日	平成16年5月25日	評価者	武藤　勇

		成果･活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	業務割合
上位目的	火災その他災害による被害が少なくなる	･火災時の自･他殺以外の死傷者数の減少及び救急時の心肺停止患者の救命率の向上（一ヶ月生存）	･死者4名･負傷者29名 **3件/**219 1．4%	･死者4名･負傷者21名 **16件/**242 6．6%	**過去5年平均より下回る** 死者3．6名･負傷者20．4名 **過去5年平均より上回る** 3.70%	A		
任務目的	迅速な救助活動を実施する	救出活動時間の短縮 （火災･交通事故） (総救出時間（分） ／救助件数)	1，472分／106件 **平均14分**	1，157分／83件 **平均14分**	**過去5年平均より下回る** 13分28秒	A	100%	☆☆☆
任務目的に対する評価	これまでの取り組みと成果、手段の妥当性	交通事故をはじめとして、水害、がけ崩れな度を想定した各種救助訓練を実施するとともに災害事例研究等を実施し、救助技術の向上と、災害現場での安全管理の徹底を図ることができた。						
	これからの課題、施策、事業展開の方向性	幹線道路･高速道路等を管内に抱え交通事故車両の損傷も激しくより、高度な救助活動技術が望まれることから、安全に救助器具の取扱いを習熟させ、扱いを習熟させ、迅速･的確な対応が図れるよう訓練及び研修を実施していく。						

業務コード 2桁	4桁	目的達成に必要な主な手段	活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	業務時間数	評　価	基本的な手段に対する評価
01		救助訓練の実施					**B**	**90%**	**7,635**	☆☆☆	多発する救助事案を想定した救助訓練を実施し、迅速的確な救助技術の向上を図ることができた。
	0101	救助技術基本訓練	訓練回数	15 回　60 人	12 回　60 人	前年以上	B	50%	3817.6		
	0102	救命索発射銃取扱訓練	訓練回数	3 回　25 人	3 回　39 人	前年以上	B	30%	2290.5		
	0103	山岳救助訓練の実施	訓練回数	0 回　0 人	4 回　40 人	前年以上	B	20%	1527.0		
90		救助出動						**10%**	**848**	――	実災害に対して迅速･的確な対応が図ることができた。
	9001	救助出動	出動回数	11 件	17 件	20件（予測）		100%	848.3		

業　務　棚　卸　表

年度	平成15年度	作成日	平成16年2月17日
所属名	中消防署　西分署		
所属コード	708111	作成者	加藤　清
評価日	平成16年5月25日	評価者	武藤　勇

		成果・活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	評　価
上位目的	火災その他災害による被害が少なくなる	・火災時の自・他殺以外の死傷者数の減少及び救急時の心肺停止患者の救命率の向上（一ヶ月生存）	・死者4名・負傷者29名 **3件/**219 1．4%	・死者4名・負傷者21名 **16件/242** 6．6%	**過去5年平均より下回る** 死者3．6名・負傷者20．4名 **過去5年平均より上回る** 3.70%	A		
任務目的	心肺停止患者1ヶ月生存率が向上する	応急手当普及率の向上 （救急講習受講者／管内人	（受講者数）／（人口） 17，526／327，445 5．4%	（受講者数）／（人口） 23，335／327，654 7．1%	0．5%上昇	A	100%	☆☆☆☆
任務目的に対する評価	これまでの取り組みと成果、手段の妥当性	事業所、自治会、PTA等を通じて、一般市民への普通救命講習を積極的に実施し、昨年度以上の参加者を得ることができ、また、職員にあっても病院研修、事例研修等を実施して所属職員の救急技術の向上を図ることができた。						
	これからの課題、施策、事業展開の方向性	少子高齢化社会の進展に伴い、今後もます増す救急需要は高まる一方であり、昨年度同様積極的に救急講習会等を実施し、救命率の向上を図っていく。						

業務コード 2桁	4桁	目的達成に必要な主な手段	活動指標	実績（平成14年中）	実績（平成15年中）	目標（平成15年中）	困難度	業務割合	業務時間数	評　価	基本的な手段に対する評価
01		**救急講習の実施**					**B**	**45%**	**15,270**	☆☆☆☆	傷病者に対する救命率の向上を図るため多くの市民に心肺蘇生技術を習得させることができた。
	0101	普通救命講習	指導回数・参加人員	5 回　106人	4 回　119人	5%UP	B	40%	6108.0		
	0102	一般救急講習	指導回数・参加人員	17 回　681人	17 回　1，278人	5%UP	B	60%	9162.1		
02		**救急訓練**					**B**	**10%**	**3,393**	☆☆	救急事案を想定した救急訓練を実施し、迅速・的確な救急技術の習得が図られた。
	0201	救急技術訓練（消防訓練と合同）	訓練回数	45 回　175人	26 回　338人	実績回数以上	B	100%	3393.4		
03		**救急研修**					**B**	**5%**	**1,697**	☆☆☆	事例研修、病院研修を通じて、より高度な救急技術の向上が図られた。
	0301	病院研修	研修回数	26 回　26人	26 回　26人	実績回数以上	B	40%	678.7		
	0302	救急研修（西分署）	研修回数	86 回　86人	22 回　286人	実績回数以上	B	60%	1018.0		
90		**救急出動**						**40%**	**13,573**	—	北西分駐所及び西南分駐所を開設し、救急体制の充実強化を図ることができた。
	9001	救急出動	出動件数	（西）835 件 （北西）159件(10～12月） （西南）151件(10～12月）	（西）　656 件 （北西）　653 件 （西南）　568 件	3隊合計で 2，400件（予測）	−−	100%	13573.4		